

経営比較分析表（令和4年度決算）

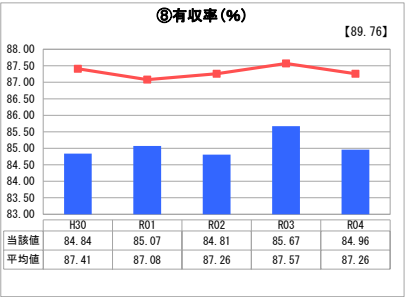
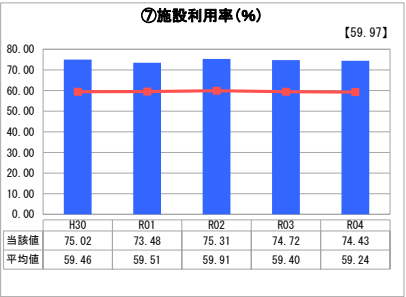
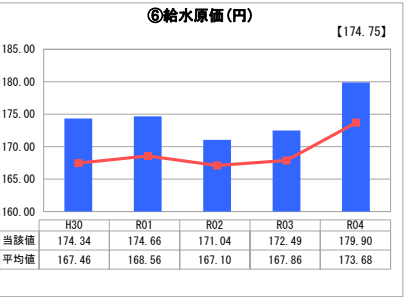
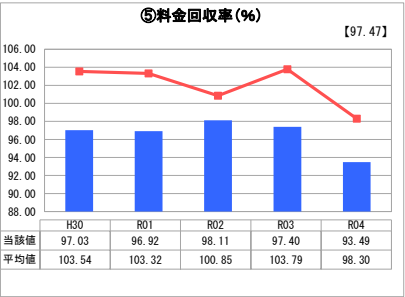
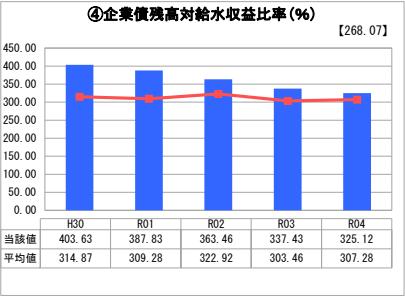
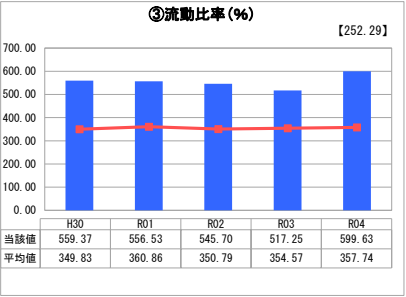
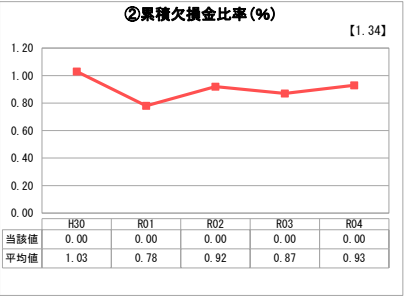
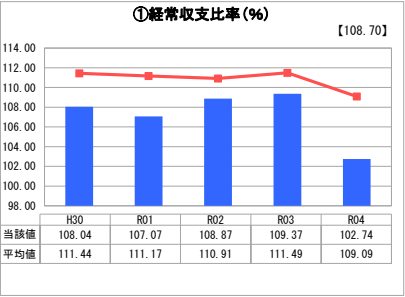
栃木県 真岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)	
-	73.75	84.49	3,190	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
79,391	167.34	474.43
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
66,909	75.09	891.05

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

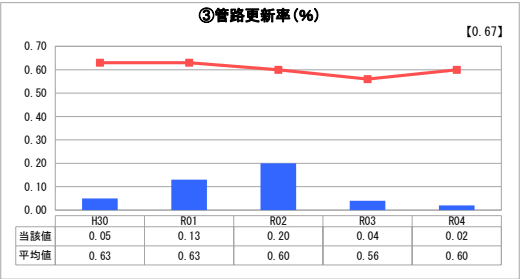
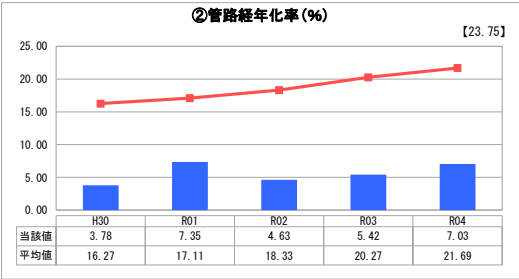
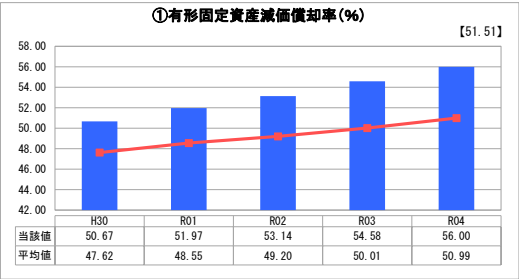
1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、平均値を下回っており昨年と比較して6.35%減少した。
その原因として物価の上昇や人件費の高騰等の費用が増加したことが要因と考えられる。依然として、経常収支比率は、100%を維持しているが、引き続き注視して行く必要がある。
企業債残高対給水収益比率については、平均値を上回っているが、昨年度より12.31%の減少となっており、平均に近づいている。よって、企業債残高は計画通り減少している。
料金回収率は、経常費用の増加及び営業収益の減少により減少傾向にあり、昨年度より3.91%の減少となった。昨年度に引き続き100%を下回っている状況となっている。
給水原価については、電気料金の高騰や原水施設・浄水施設の老朽化により設備の修繕等が必要になるため、経常費用が増加し、昨年と比較して3.91%減少した。回収率を100%に近づけるためには、経常費用の削減と早急な漏水修繕を行い、有収水量を増やす必要がある。
流動比率及び施設利用率に関しては、平均値を上回っており、現在の水準を維持して行くことに努める。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、平均値より上回っており、昨年度より1.42%増加している。平均値を上回る状況が続いているため、計画的な設備の更新を行う必要がある。現状、管路経年化率は平均値を下回っていますが、管路更新率は平均値を下回る状況が続いているため、計画的な老朽管の更新を行っていく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

今年度の収支も黒字であるが、次年度についても全国的な物価の上昇及び燃料費高騰が見込まれるため、さらなる費用の増大が考えられる。引き続き、健全な経営を維持するため、より効率的な経営戦略と計画的な施設設備更新を心掛けたい。